

## ■ あとがき

大震災・原発事故から2年が経過しましたが、今なお約16万人の福島県民が避難生活を強いられており、除染も計画どおりは進まず、営農再開はおろか故郷への帰還のめども立たない組合員も多数おられます。

JAグループ福島は、昨年度に引き続き大震災・原発事故からの復旧・復興を最優先課題として事業活動を展開しているところであります。

農業生産基盤の復興と安全な農畜産物の生産に向けては、水田、樹園地の除染対策をはじめ、ゼオライト、カリ肥料の施用などによる放射性物質の吸収抑制対策に取り組みました。

さらに、福島ブランドの信頼回復に向け、園芸品目の全戸・全品目の自主検査、県と連携した米の全袋検査を実施し、食品衛生法上の基準値を超過する農畜産物は市場に流通させない体制の構築に取り組みました。

また、全国のJAグループ組合員・役職員をはじめ多くの仲間からは、昨年に引き続き物心両面にわたる温かい協同の力を提供いただき、復興へ向け大きな支えとなっております。

大震災・原発事故から3年目を迎え、それを風化させてはならないとの思いから、主として平成24年3月以降のJAグループ福島の取り組みを「JAグループ福島 復興のあゆみ」として作成いたしました。

本誌を作成するにあたり、原稿や写真・資料を提供していただいた各JA、各連合会をはじめ、(株)日本農業新聞、(株)JA情報サービスなど各関係機関のご協力に感謝申し上げます。

震災・原発事故前には戻りませんが、今春は、NHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台となった会津をはじめ、本県の花の名所である福島市の「花見山」や三春町の「滝桜」などに県内外から多くの方に足を運んでいただいております。

こうしたことも風評被害払拭(ふっしょく)の一助とし、組合員の営農再開と「福島ブランド」復活のため、今後とも協同の力を結集して、事業活動を展開してまいります。

引き続き皆さまのご指導、ご支援をお願い申し上げます。

### JAグループ福島 復興のあゆみ

#### 3.11 東日本大震災 JAグループ福島の取り組み No.2

平成25年5月28日 発行

**編集** 福島県農業協同組合中央会  
〒960-0294 福島市飯坂町平野字三枚長1-1  
電話 024-554-3040

**発行** JAグループ福島

**制作** 株式会社 日本農業新聞  
〒110-8722 東京都台東区秋葉原2-3  
電話 03-5295-7410